

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974300093		
法人名	株式会社エース		
事業所名	グループホーム太陽十津川 折立の郷		
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364-1		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	/www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=2974300093-00&ServiceCd=720&Type
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和2年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との交流を大切に、家庭的な雰囲気作りを心掛けアットホームな生活を送って頂けるように取り組み、入所者様とその家族様が安心と希望のある未来が実現できるように努力しています。また、介護事業・障害福祉事業・介護タクシー・移動支援事業等を併設、奈良事業所との連携、温泉を利用し民宿やふれあいサロンを開設し、多様化するニーズに対応できるよう日々努力しています。防災に関しては、消防署・十津川村役場・地域住民と連携しながら、災害に強い施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

十津川村折立は奈良県の最南端に位置し三重県と和歌山県との県境でもあり生活圏は3県にまたがり、林業 農業(自給自足)、川魚の養殖、加工が主な産業で成り立っている。法人はグループホームがある2階建ての建物に、ヘルパーステーション 介護タクシー 別棟に介護付き住宅 近辺に機能訓練ふれあいサロンなどの事業を展開している。近くには銀行 郵便局 消防署 道の駅がある。地域は高齢化に伴い住民の生活が困難になりつつあり、行政と住民と事業所あげて高齢者の支援に協力体制を取り、いろいろな課題にも取り組んでいる。事業所が催す祭りに民生委員の方6,7名がボランティアとして訪れるなど、地域の方の協力を得て、地域の方と利用者も楽しいひと時を過ごした。また、法人は職員に福祉に関する資格取得を推奨し支援している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「GH太陽は人間尊重を基本とし、家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を理念として掲げ、家族様や地域の方々と共に利用者様を支えあえる関係を築いていけるよう職員一同心掛けています。	創設時に代表者が「人間尊重、地域社会の発展、職員の意識の向上」を目指した拘りの下に作られた理念を玄関に掲げ、現在に至っている。夕方の職員のミーティングでも確認を行い支援に活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店へ買い物に行かれる利用者様や、畑で採れた野菜を持ってきて下さる関係にある近隣住民の方々と共に、日常的な交流のもと地域で生活しています。	自治会に加入し、代表者は地域の役員も引き受け、住民との交流が密にできている。地域の神社の祭りにも参加し、事業所で催す盆踊り、クリスマス会などに地域の方を招き、利用者、職員が共に楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンを平谷地区に開設し、要介護者・障害者・健常者の隔たりなく、地域の皆様の交流の場となれるよう日々努力しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は役場職員、折立総代、老人会会長が来られて、避難訓練の様子を見学して頂きご意見を頂戴して安全対策の参考にしています。	運営推進会議は、村役場の担当、包括支援センター職員、民生委員、折立地区総代、老人会代表が参加して年1回は必ず開催し、意見交換を行っている。民生委員の方数人が施設の草引きや窓ふきに訪れるなど協力関係が密にできている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、診療所医師、役場福祉、各事業所の職員が参加して情報の共有や協力関係を築いています。	職員が毎月必ず役場に出向き、地域の高齢者の情報を得るなど連携を密にしている。地域の福祉課題を解決するために、役場担当課が関係機関、担当者を招集し開催する地域ケア会議に参加し、情報交換を行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を重視した対応に努め、社内で研修を適宜開催して話し合っています。	玄関の施設はしていない。危険防止の為やむを得ずベッド柵を使用する場合は利用者の家族にベッド柵の必要性を説明し同意を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングにおいて早期発見や防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	奈良事業所には成年後見制度を利用されている方がいたり、十津川事業所においても問い合わせがあり、役場職員と話しあったりもしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	費用だけでなく疑問や不安に対する事柄についても納得していただけるよう説明しています。契約書や重要事項説明書で十分な説明をし納得して頂いた上で契約を交わしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様の日々の会話の中から思いを、家族様が面会に来られた時や電話連絡した時などに意見や思いをお聞きし、ミーティング等で話し合って情報共有して、その思いを反映していけるよう努めています。	家族の意見や要望は面会時に聴くようにしている。遠方の家族とは電話で利用者の様子を伝え、家族からの意見や要望を聴くようにしている。毎月利用料の請求書を家族に送付する時に生活の様子を手紙に書き写真を添えて同封している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今日の出来事、反省点、今後の予定などについて毎日のミーティングで話し合い、また、日頃から相談や意見を聞いています。	代表者は職員が意見や提案などを言い易い雰囲気づくりをし、毎日のミーティングで職員の意見などを聴き話し合い運営に活かしている。職員相互のコミュニケーションはよくとれており、働きやすい環境になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事と生活の調和が実現した社会を目指す「ワーク・ライフ・バランス」の考えを取り入れて、バランスよい職場環境を心がけています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修だけでなく、資格取得を目指す職員には日程調整や費用について支援行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場関係者、医療関係者、他の事業所職員が参加する地域ケア会議に積極的に出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される方の要望をお聞きし信頼関係の構築に努めています。見学や体験にも応じています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や思いをお聞きして、担当ケアマネとも連携して、より良い信頼関係を結べるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の必要とされているニーズを見極めるため、担当ケアマネや医療機関とも連携して情報収集に取り組んでいます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力を見極め、無理のない範囲で出来る事(洗濯物をたたんだり野菜の皮むき等)をして頂き「必要とされる存在」であると感じてもらっています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との日々の関係を大切に、そのことが利用者様を共に支えていく信頼関係の構築へとつながっていきます。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご実家へ荷物を取りに行かれる方がいたり、馴染みの方々が面会に来られます。地域住民との交流となっている地域行事が、コロナウイルスの関係で中止となっていることが残念です。	コロナ禍の為、利用者への面会は少なくなっているが、地域の行事にできるだけ参加したり、地域の方がホームを訪れる機会を作るよう努めている。自宅へ季節の衣類など必要な物を取りに行く方もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性も含めて席を考えたり、孤立やトラブルとならないよう未然に防ぐよう努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても何かお困りごとがあれば、いつでも相談してくださいとお伝えしています。また地域性から家族様とお会いする機会がしばしばありお話すの機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや希望をお聞きして、手紙や電話で家族様へもお伝えし情報を共有するように努めています。入所者様本位のより良い暮らしができるよう支援しています。	利用開始時に本人と家族から生活歴、趣味、特技、嗜好、生活習慣等を聴き、利用開始後は日々の生活の中で利用者の話や思いを汲み取り把握している。利用者の意志を大切に、歌番組が好きな方が多いことが分かり、録画した歌番組を見て楽しんでもらっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や担当ケアマネージャーより情報を得て個人ファイルで共有しています。利用者様との日々の会話の中にも様々な情報が含まれているので注意深く傾聴し、ミーティングで話し合い共有しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を個人日誌に記録し、毎日のミーティングで報告や話し合いをして現状の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様や家族様に希望や意見をお聞きし、その内容を計画に反映させるように努めています。また心身に変化が見られた場合には区分変更も視野に入れ計画を見直しています。	利用者や家族の思いや要望を聴くとともに、毎日のミーティングでケアについての情報交換を行い介護計画に活かしている。利用者の心身の状態に変化があれば必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に排泄や入浴の状況・気づき等を日誌に記録して情報の共有に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護事業の多機能化だけでなく、温泉を利用した取組みで民宿を始めました。8月にはグループホームから民宿へ移動し日帰り温泉を楽しみました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新たな地域資源の開発にも力をいれ、民宿やデイサービスを開設しました。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは定期的な受診だけでなく、ターミナル期においては往診にも応じて頂いています。医療関係者等が集まる地域会議にも積極的に参加させて頂いています。	利用者は2ヶ月に1回地域の医療機関へ職員が付き添い受診し、できるだけ同じ医師に診てもらえるように支援している。職員が毎月薬をもらいに行っている。訪問看護師が週1回訪問し、健康管理を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お薬ファイルで服薬状況を共有し、日々の日誌で気づきを記録しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成して日々の生活や状況をお伝えしています。家族様が入退院時に来て頂けない場合は、職員が代わって手続きをすすめています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期はご本人と家族様の意向を十分にお聞きし、主治医の皆様も往診に来て頂いています。看取り指針についても役場へ提出し実施しています。	看取りの指針を作成し、本人と家族に説明している。本人が重度化した時には、医師とともに本人と家族と話し合い、意向にそった看取りの体制をとり、葬儀は事業所で執り行っている。職員には、看取りに関する技術面や精神面の研修を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDがグループホーム内に設置してあり定期的な研修を行っています。また緊急時には消防署が近くにあることもあり、すぐに駆けつけて頂ける体制となっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難マニュアルを確認や見直しを実施し、避難経路や消火設備を職員全員で確認して、消防への通報訓練を新職員全員に訓練しました。	火災避難マニュアルを作成し、避難訓練を実施している。2階からも直接外に避難できるようになっている。代表者は「まず火を出さないことが大切」との思いから、自ら率先して火元の安全確認を徹底している。運営推進会議で災害発生時に地域の協力を要請し確約を得ている。食料や飲料水の備蓄も十分にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や守秘義務についての重要性を説明し理解してから勤務して頂きます。不適切な言動や介護内容については日々のミーティングで話し合いをしています。	居室への入室時は必ず声かけし、本人の許可を得ている。入浴介助は同性介助になるように心がけ、着替えやおむつ交換時も、他人から見えないよう配慮している。プライバシーの確保について、ミーティングで話し合い確認している。声掛けをする時は「姓」にさん付けを基本としているが、同姓の方には「名前」にさん付けで呼びかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から希望を言い易い関係作りに努め、答え易い質問をすることで可能な限り自己決定できるよう支援しています。耳が聞こえにくい方には紙に書いて対応しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様の体調や希望に合わせてその人らしい生活が出来るように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をといたり、定期的に散髪しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操や手指消毒を、嚥下機能が低下されている方にはトロミをつけ誤嚥防止に努めています。畑で採れた野菜の皮むき等の下準備を手伝ってもらったりもします。	食事は手持ちの食材をもとに献立を考えて、すべて職員の手づくりで提供している。代表者は利用者と一緒に同じ料理を食べ食事を楽しんでいる。行事食は巻き寿司やいなり寿司やケーキを用意するなど利用者の楽しみになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能が低下している方には、刻んでとろみをつけたりして食べやすい工夫をし誤嚥防止に努めています。また褥瘡については高カロリーのゼリー等を活用し栄養面からも支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に歯磨きやぶくぶくうがい、義歯については洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表の活用、ミーティングでの話し合い等、個々の排泄状況を共有して声掛けや誘導を行っています。	昼間はハビリパンツや布パンツを使用している方が多く、夜間は眠りを妨げないようにオムツを利用している。また、居室にポータブルトイレを置いて使っている方もいる。	排泄の自立に向け一人ひとりの排泄状態を綿密に記録する排泄チェック表の作成が望まれる。排泄チェック表により排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導を行なう排泄の自立支援に向けた取り組みを期待する。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のタイミングや緩下剤の利用で便秘予防を心掛けています。また排便チェック表を活用して排便状況を職員間で共有しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴状況をチェック表で確認し共有しています。その日の気分や体調によって、翌日に振り替えたりします。	入浴は3日に1回を基本とし、時間帯を決めず本人の希望した時に入るようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミングを見計らい適時な声かけするなど工夫している。季節に合わせて入浴剤やゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの時間に昼寝をされたり、夏場は冷房や扇風機、冬場は暖房や電気あんかを使って過ごし易い温度調節を心がけています。おむつ交換で眠りを妨げないように吸収量の多い物を選択したりします。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	声掛けや一歩化等の工夫をして飲み忘れのないよう心掛けています。用法や効能を記載した服薬管理ファイルを活用し情報の共有にも努めています。薬の目的や副作用の危険性を学ぶために薬剤に関する資格取得を目指している職員もいます		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々の利用者様の力を見極めて、裁縫や調理補助といった役割を担って頂き、趣味趣向についても把握に努め楽しめるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの商店への買い物や支援したり、天気のいい日に折立橋へ日光浴を兼ねた散歩に出かけたりします。	利用者が高齢化により重度化が進み、全員揃っての外出が難しくなっている。また新型コロナウイルス感染予防の為、日常的な外出は控えている。唯一2ヶ月に1回の病院行きが外出の機会になっている。	遠出の外出は無理と思われるが、天気を見計らい、たとえ短時間であっても裏庭等に出て日光浴や気分転換を図る機会をできるだけ多く計画的に行う取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については基本的に行っていませんが、適宜ご本人や家族様の意向に沿った支援を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話を取り次いだり、家族様からの手紙はご本人に渡して読んで頂いています。請求書等の送付時に利用者様の希望や要望、近況報告を記載してお送りしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	職員が季節の草花を花瓶に挿し季節感をだしています。行事写真をホールに掲示して回想法に利用しています。エアコンや扇風機で過ごしやすい温度になるよう調節しています。	利用者が終日顔を合わす場となる居間には利用者の状態に合わせた高さや作りこだわった六角テーブルと椅子を配置し、壁際に置かれたテレビや長椅子で利用者が寛いでいる。台所が対面式になっており、職員は作業をしながら利用者の姿を見守ることができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には居室で休んで頂き、ホールでは椅子とソファを利用者様同士の相性も考慮して座席を決め、楽しい時間を過ごせる共有空間となるよう努めています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド利用や畳の上で布団を敷いたり個々に対応しています。ご夫婦で利用されている方もいます。居室扉には表札をつけ分かりやすくし、自宅から持って来られた使い慣れた生活用品が使われています。	居室は好みに応じて畳敷か木製フローリングかどちらかを選ぶことができる。室内にはベッドや洗面台、防災製品のカーテンなどが備え付けとなっている。利用者は馴染みのタンスや仏壇を持ち込みそれぞれ好みの部屋づくりとなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りご自身で排泄できるよう支援し各部屋にトイレや手すりを設置しています。居室ドアには表札をつけ分かりやすくし、段差をなくしバリアフリー化に努めています。		